

治療・予防・情報交換を行える空間 セルフメディケーションができる島

漁業と牛の放牧が主な産業で、港や放牧のために住宅が散らばっているんだも～



自給自足の島

減築×壁・開口部の変更

▷開かれた空間へ



0 100 500 1000 2000m

"知夫村の現状と今後" 外部の力に依存



知夫村は医師が1人：医療機関が不足
→他の島へ（島外に頼る）

目が行き届かない



目が行き届かないため生活習慣病が多い

新型コロナ流行
→島外に出られない

島内の力を強める



住民同士が助け合いて不足を補う
「医療福祉自給自足」

"知夫里の家" 島留学生の家が島民が集まる空間へ



住宅が分散している



住宅のまとまりごとに空き家を改修
"島留学生の家"を建設



住宅のまとまりごとに島の人が集まれる

島のお医者さん
住宅が分散していて島の人たちの様子を見ることが難しいので、「ここへ行けば島の人たちと会える」という場所が欲しい。



"五感を刺激する空間"



感情が豊かになり
健康になる

"手を加えていく住まい"

島民の方々は昔から自分の家の増築改築を
自ら行っていた



愛着が湧きみんなの家となる

"大人も子どもも島留学"

現在

島留学

島外の小中学生が島の学校に通う
学校の近くの寮に住む

今後（提案）

＋大人の島留学

仕事体験など島での生活を体験
島民が集まる空間に住む

新たに来た人々を中心に集まり、
島の住民たちが漏れなく繋がる

"空き家改修"

棟数	開口	間取り	屋根	骨組み
大	複合	変更	変更	継続
中	一棟	変更	変更	継続
小	一棟	変更	継続	継続

"集落ごとのコンセプト"

他の集落にもいきたくなるよう、集落の特徴
ごとに各家のコンセプトを変える

村長さん
空き家が多いことと、図書館や、
公園などの子どもの居場所がない
という問題を解決してほしい。



日本の各地方では、総人口の減少、年少人口割合の低下、高齢化率の上昇が続き、過疎化が問題となっている。それに伴い、医療福祉の不足が深刻な課題になっている。各地方は、それらの問題を解決する取り組みを行なっているが、人や機関を集めることが重要視された対策が多く行われているが、解決に向かっている地域は非常に少ない。

そこで、外部からの力ではなく、地域の繋がりを高め、地域の中で問題を解決していく自給自足の力を養うことが大切である。

今回は、自給自足する地域の一例として「自給自足する島」を提案する。

面積：13.7 km²
人口：617人
一般世帯数：330世帯
高齢夫婦：81世帯
高齢単身：86世帯
集落数：7集落
主な産業：漁・放牧



島根県隠岐島知夫村



知夫村は現在、医療福祉の不足が問題となっている地域の一つである。そこで、自給自足の核となる住宅を点在させることにより、地域の繋がりを高め、地域の魅力を高めることで、地域の将来を支えたいと考えたも～



石の家

ここの地区で昔から重要な役割を果たしている石によって空間を豊かにし、暖かい空間を想像している。また、この敷地には三箇所からアプローチすることができ人々が思い思いに集いに訪れる。

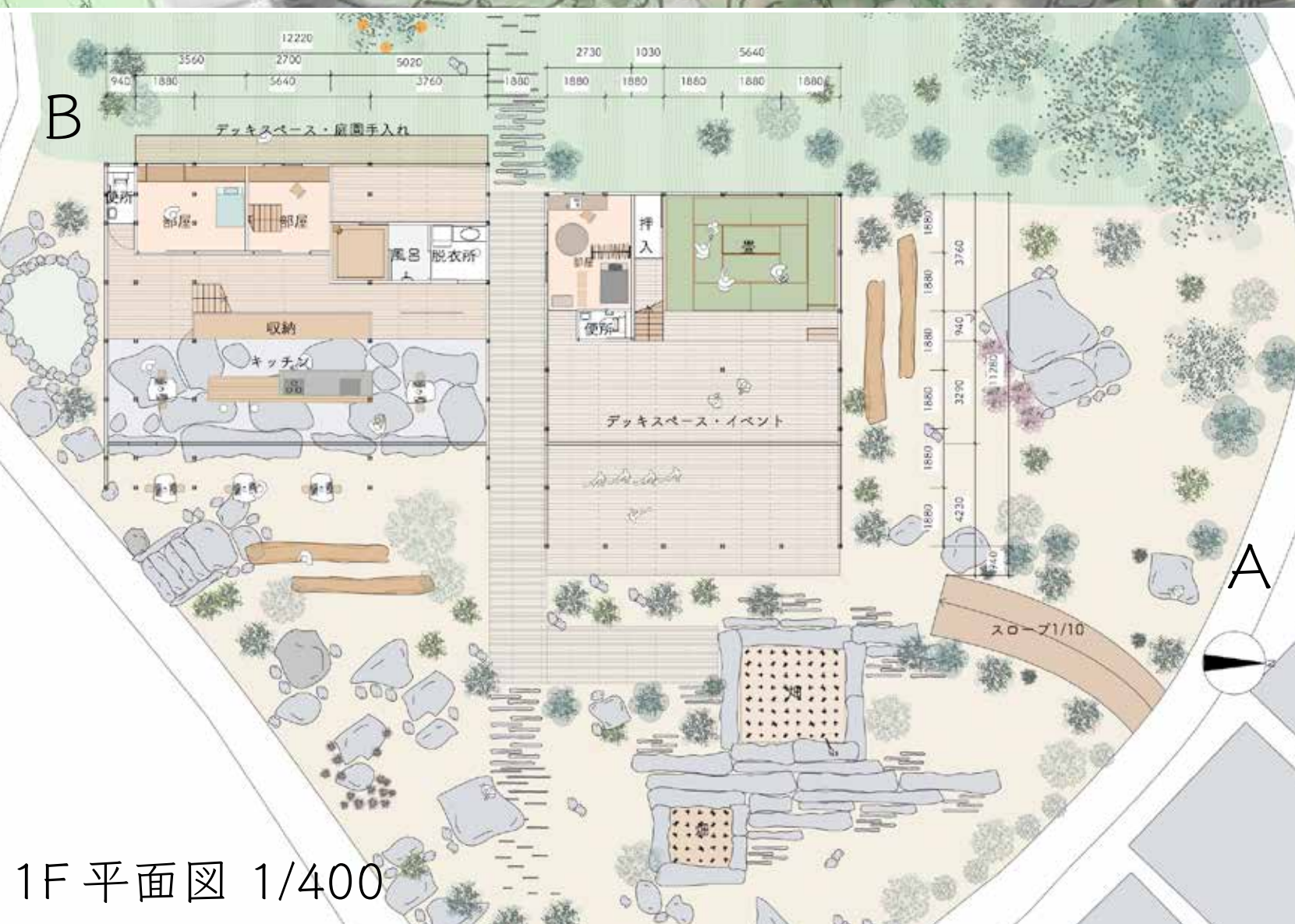
知夫村古海地区

留学生3人/宿泊可能数4人
急な傾斜面の地形で、石垣の上に建ててある家が多くある地域である。また、住宅、山、海が近くにある敷地である。

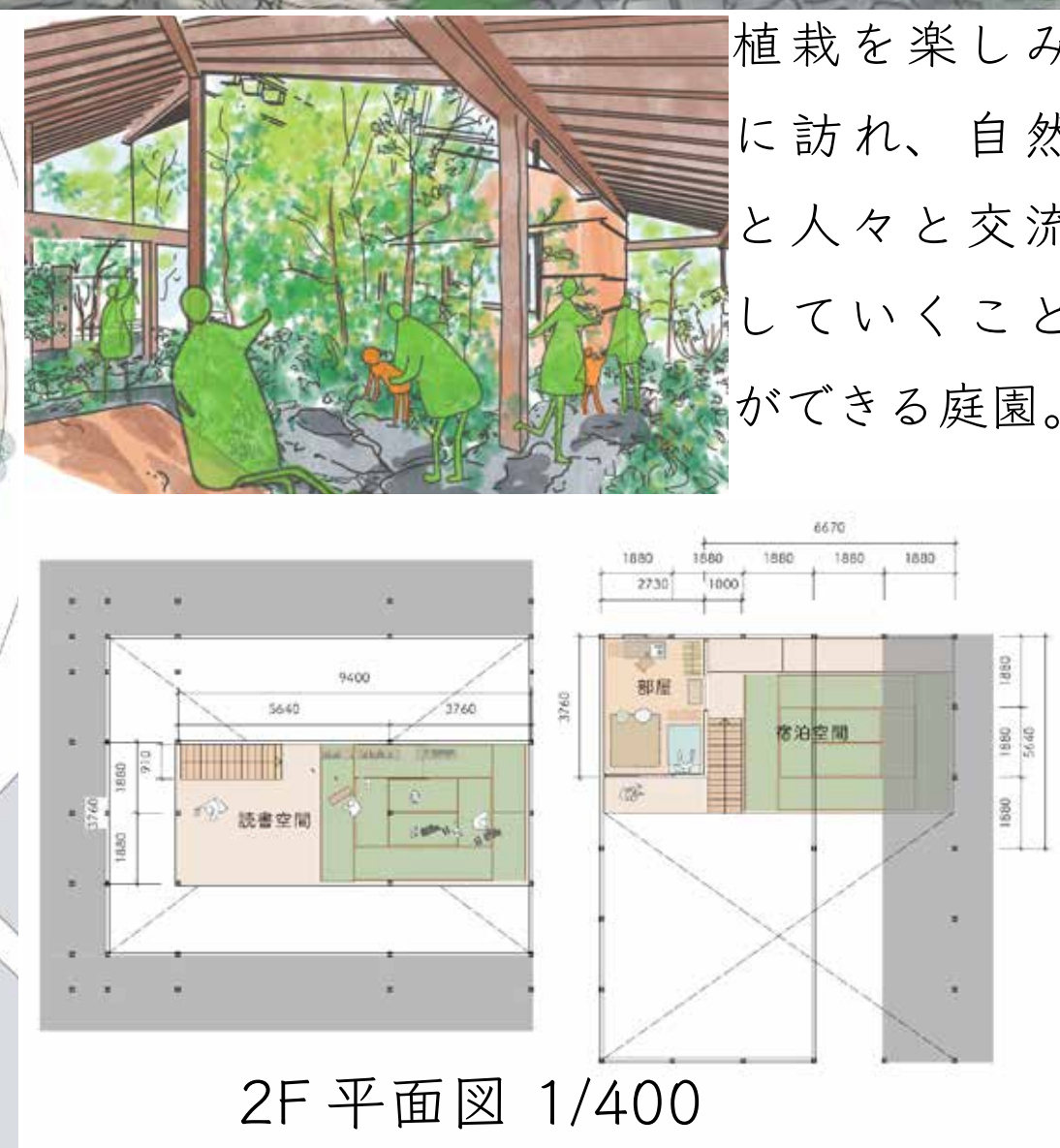


A. 海へと繋がる

スロープから敷地を出て行くと綺麗な海を見渡せる浜へと続く道へと繋がる。
現在、その浜は利用されておらず、ゴミが貯まっている。この家からアプローチできるようにすることによって、再び人々が訪れ、綺麗な浜へと生まれ変わる手助けをする。それによって、この島の美しさを再確認し、この島を大切にしていく。



1F 平面図 1/400



2F 平面図 1/400

植栽を楽しみに訪れ、自然と人々と交流していくことができる庭園。



半地下になっている和室や個室で大地を感じながら心を落ち着ける、留学生の部屋や、体調が悪いときに泊まれる宿泊空間。



自然を感じ、複数で楽しめるお風呂。



B. 柿の木

既存の柿の木を残し、柿を収穫し、地区のみんなで干したり、料理をしたりなどの交流が出来る空間とした。

空の家



ガラスの瓦から空の光、雲、風の流れる感じることができる。本島への医療用ヘリポートがある地区なので、少し心配な方がトマラスの宿泊スペースもあり安心。



来居地区

留学生 2人 / 宿泊可能数 4人

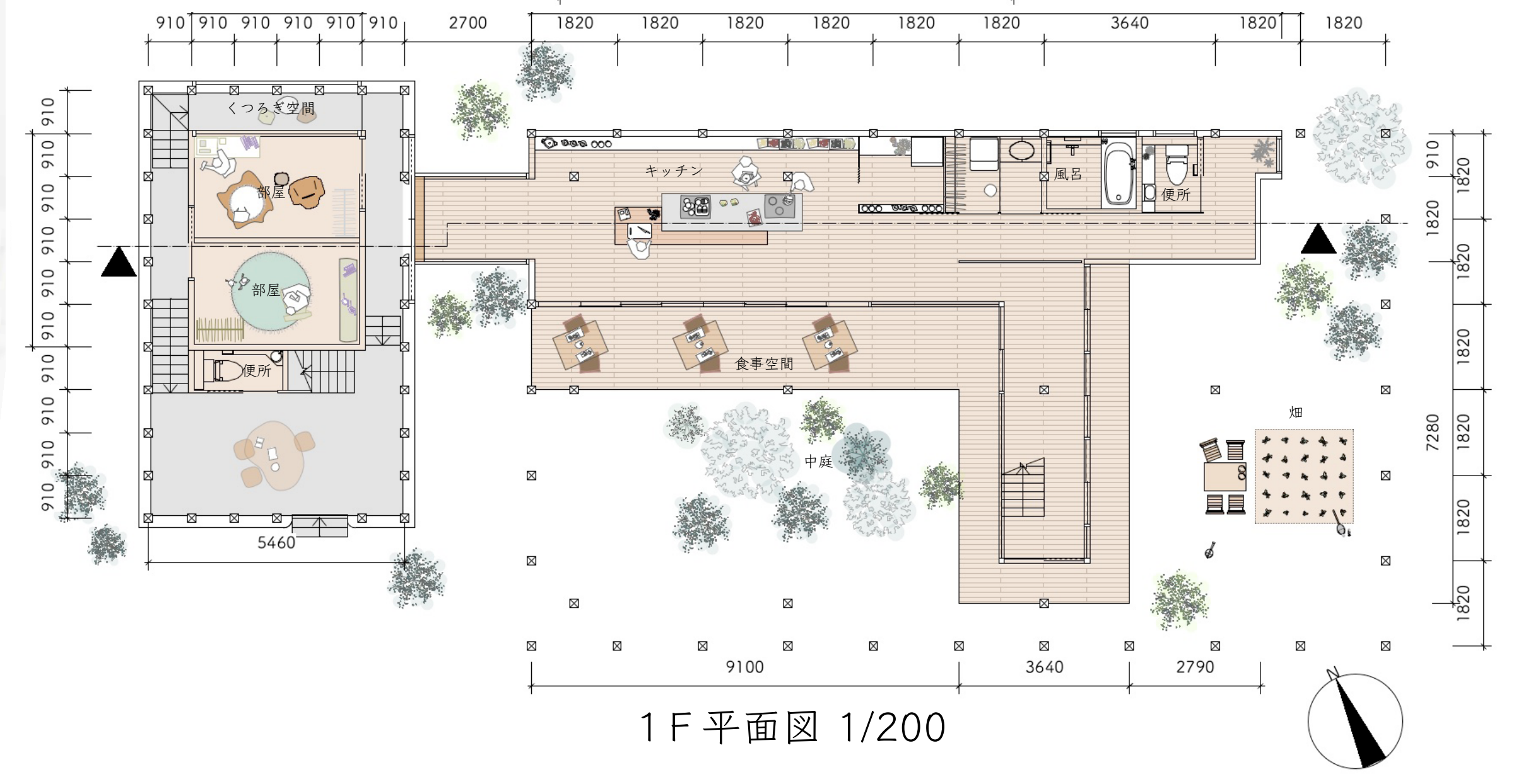
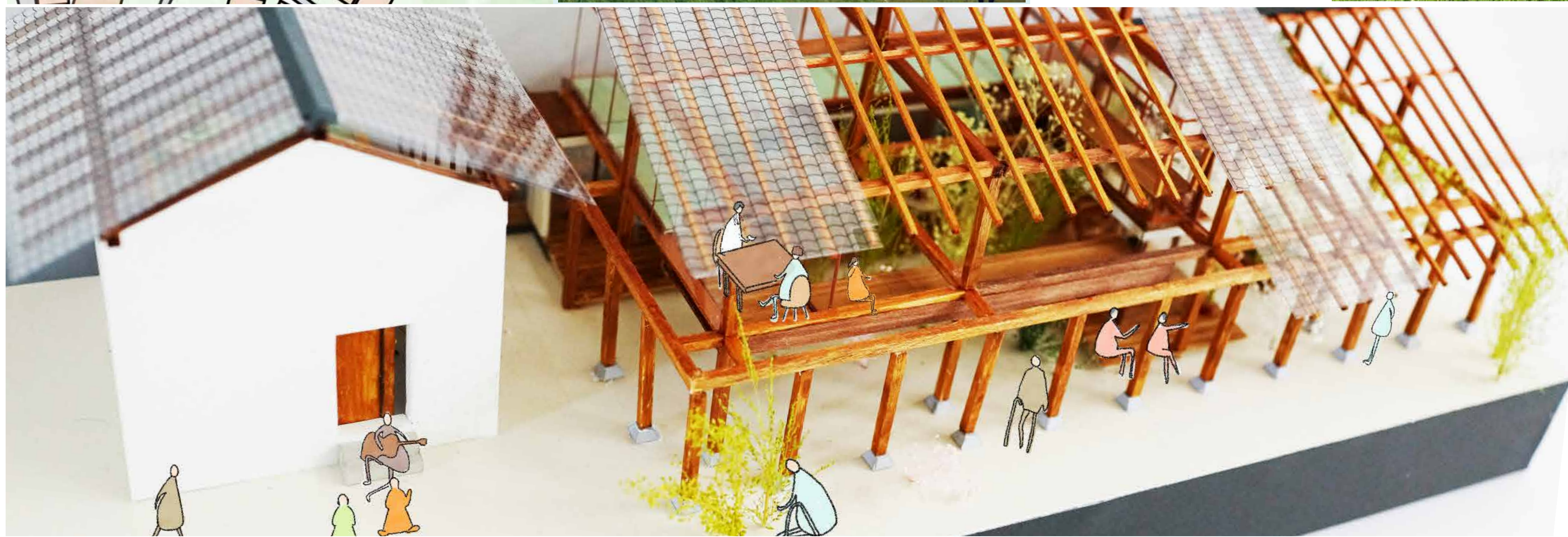
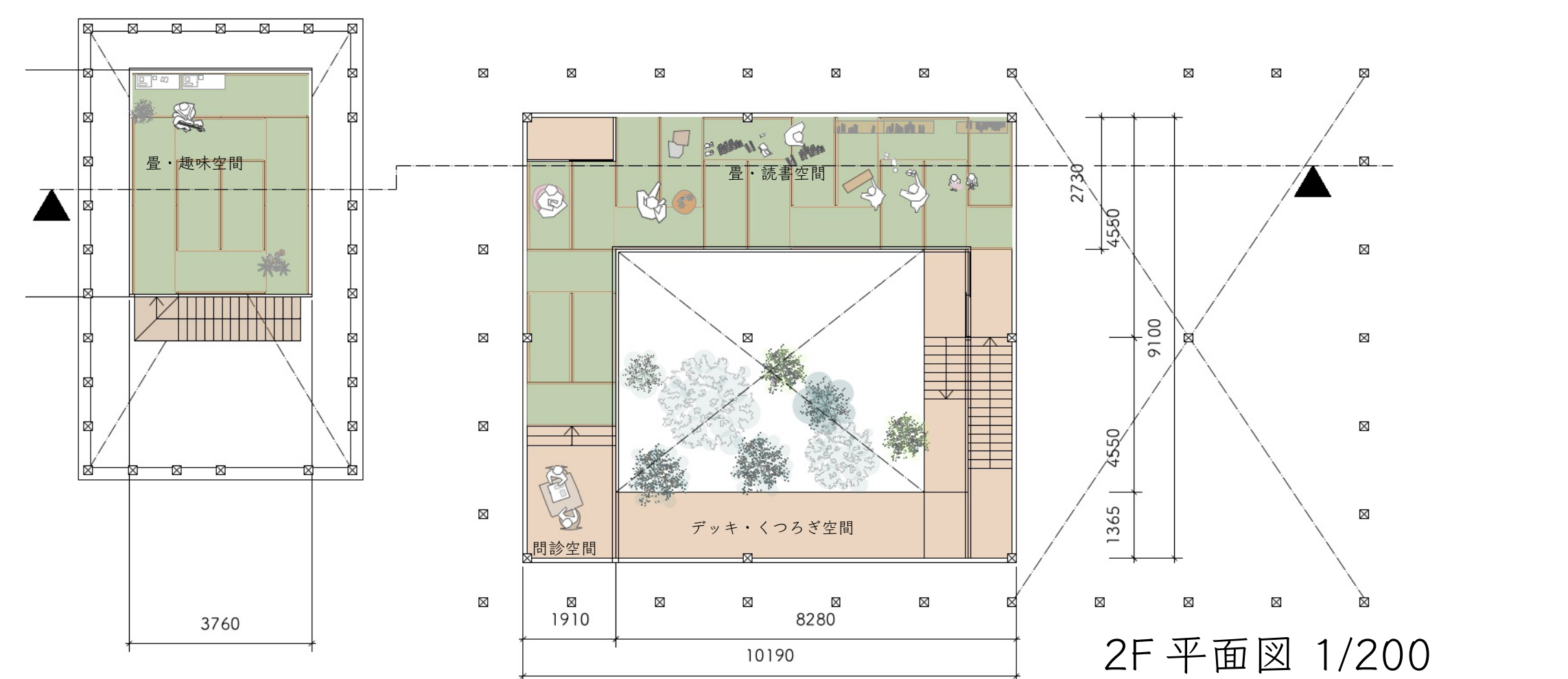
地形が一番高い地区で、本島への医療用ヘリコプターのヘリポートがある地区。



お医者さんが問診にくる場所を設けているので、気軽に身体のことについてお医者さんに相談できる。また、心配な時には宿泊も出来る。

躯体を残し、瓦を外して木漏れ日が落ちる吹き向け空間や、瓦をガラス瓦として空を存分に感じられる家とした。

▽改築前



水の家



①山の湧き水を利用し、水面を設けている。知夫村は「水の島」と呼ばれるほど豊かな美しい山水と井戸水がある島である。その豊かな水に触れ、鴨井から漏れてくる光が水面で湯てているのを感じ、人々の感情を豊かにしていく。



ユネスコで紹介されている知夫村の山の湧き水「河井の湧き水」



②スロープを歩いて室内へ入ると、図書を楽しめる空間へと繋がる。現在、知夫村には、図書館がなく中々気軽に読書が楽しめないことが問題だと、島の人々は感じている。ここへ人々が訪れ、念願だった読書を気軽にくつろぎながら堪能することができる。



薄毛地区

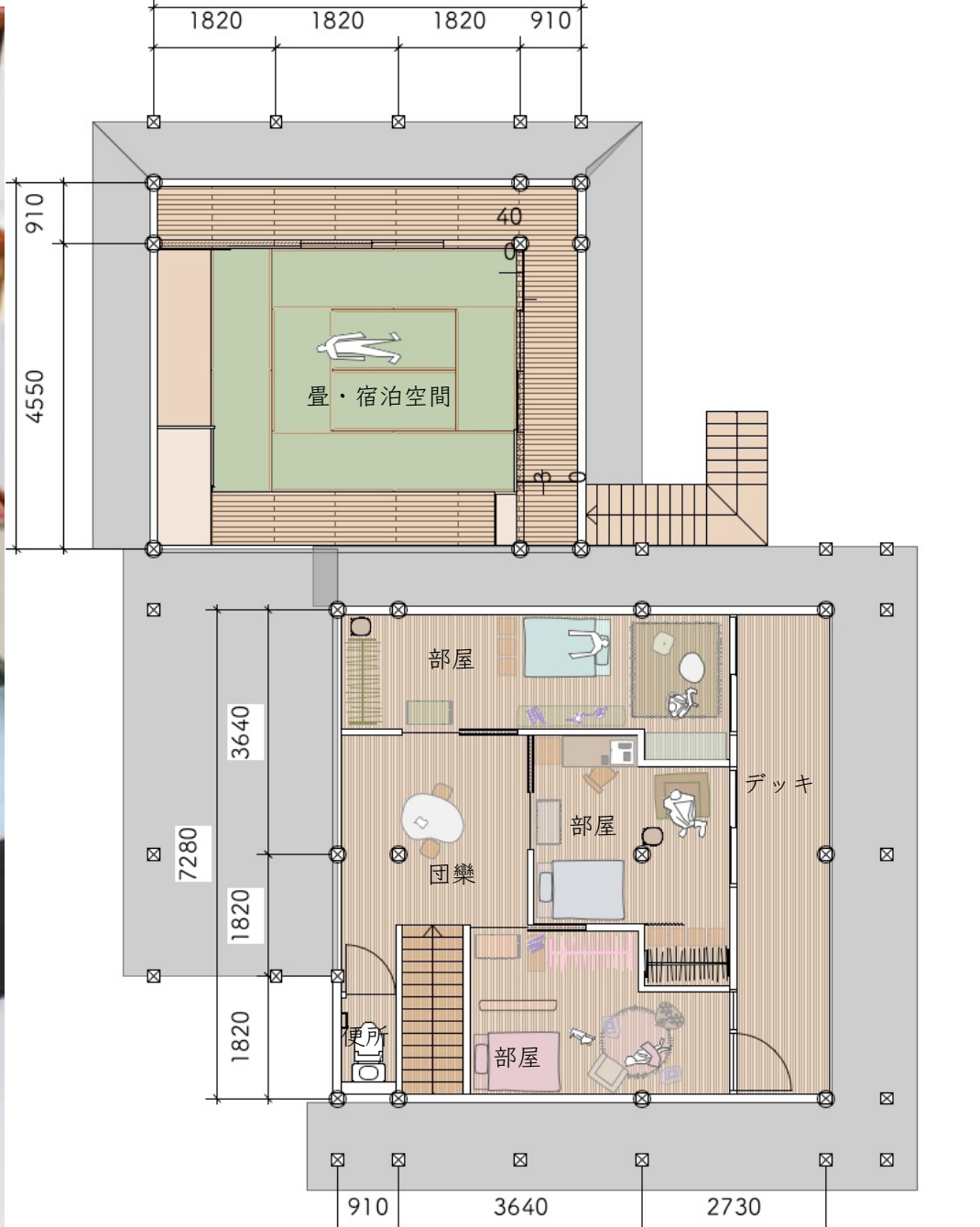
留学生3人/宿泊可能数5人
他の島の出入り口となるフェリーの船着場があり、釣り人たちが多く訪れる地区。



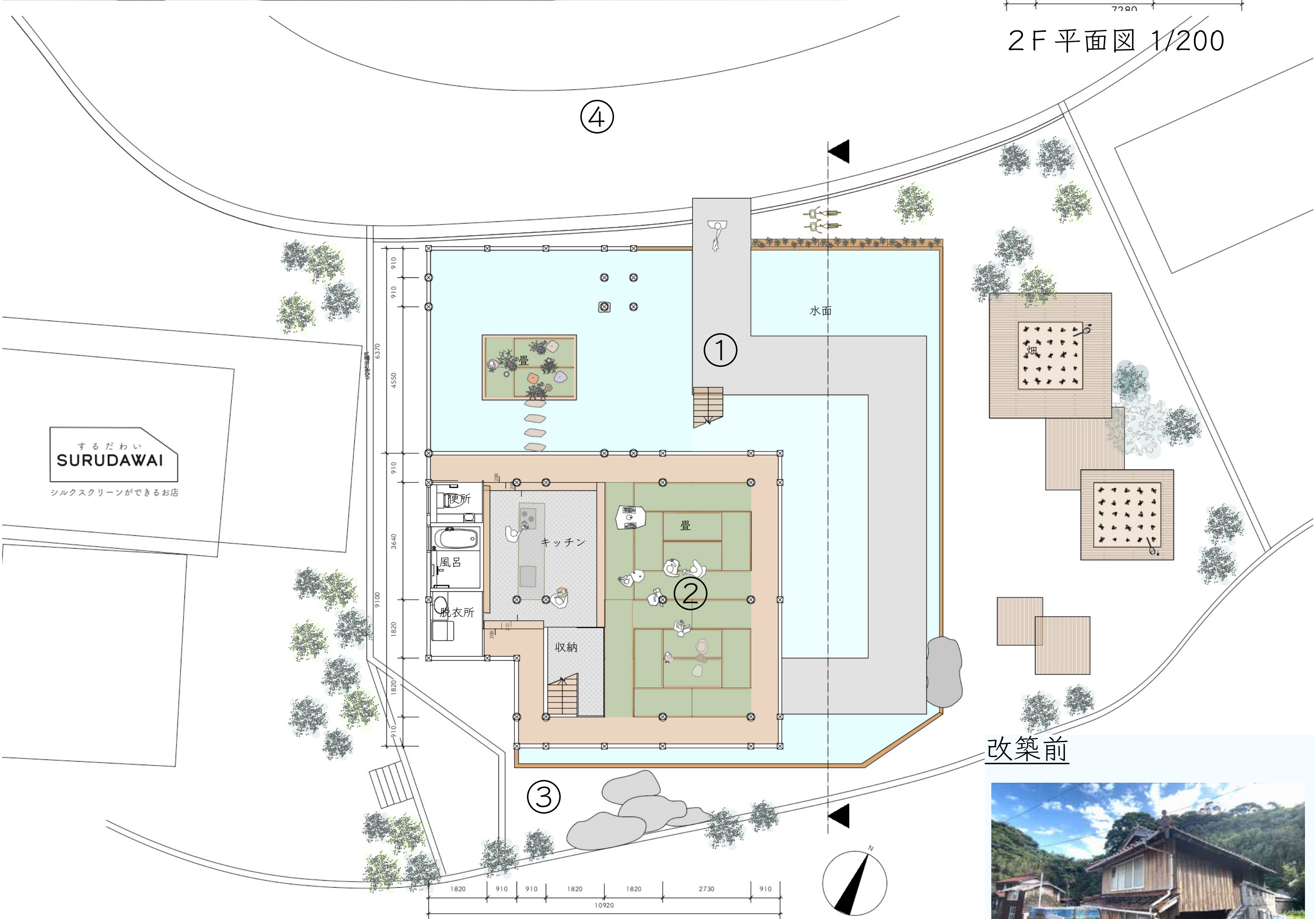
④湧き水だけでなく、表へ出ると海が広がっており、海の水とも触れ合うことができる。山の湧き水と日本海の海水、島の豊かな水を存分に感じることができる。



③隣地には、SURUDAWAI というTシャツ作りなどを体験できる施設がある。その空間と繋げることによって人々の繋がりを促進する。



2F 平面図 1/200



1F 平面図 1/200

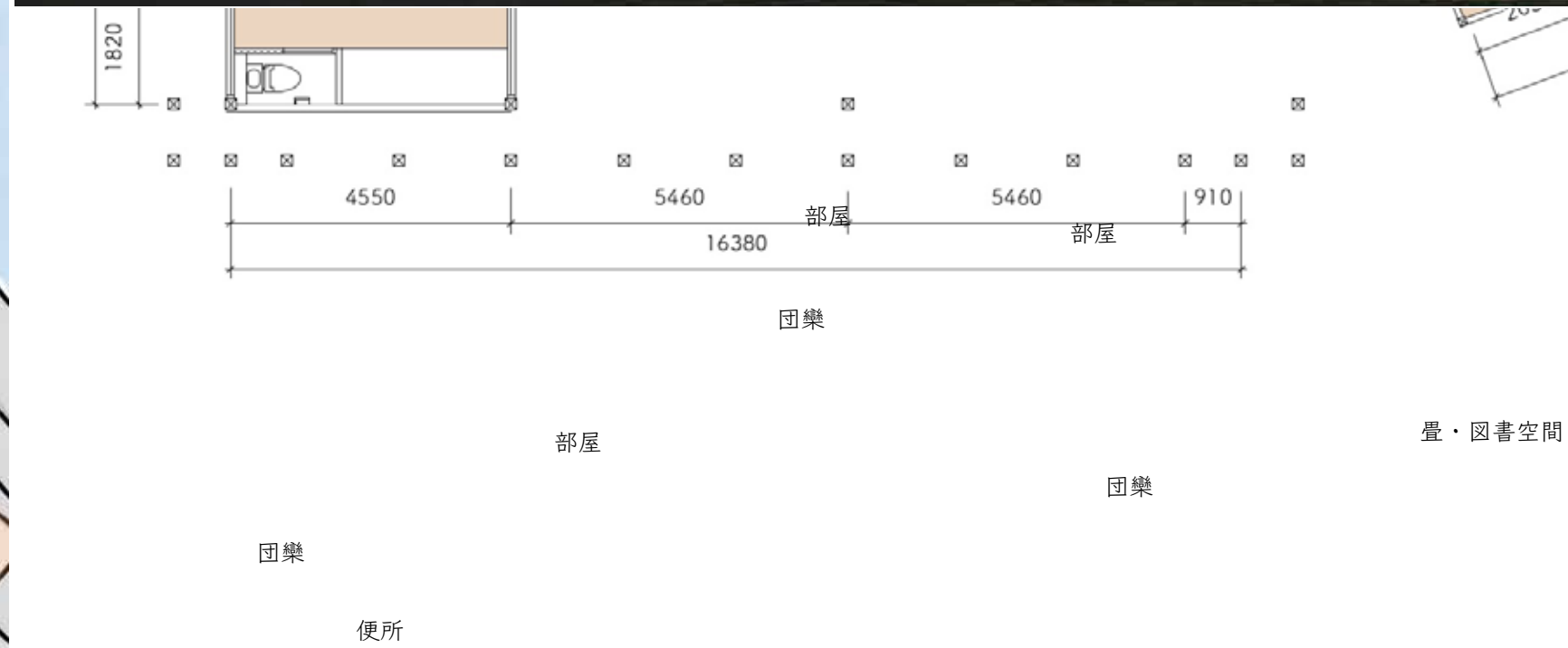


彩の家

大江地区

留学生 7 人 / 宿泊可能数 8 人

病院、小中一貫校、島唯一の商店があり、人が多く集まる地区。

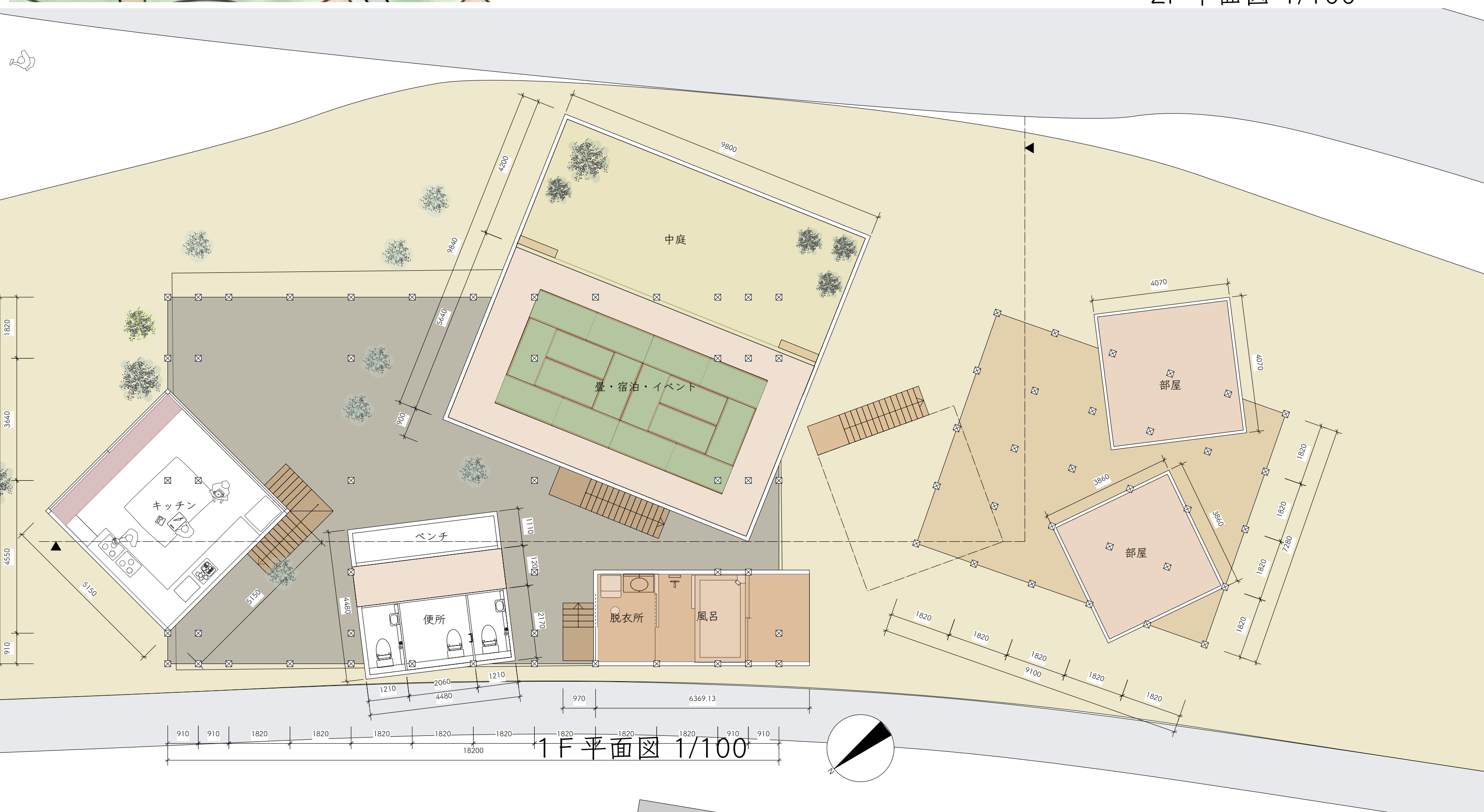


2F 平面図 1/100



① 1 人の時間も優雅に過ごせる空間。

隠岐島で伝統的なお盆の行事であるシャーラ船をイメージした格子は、賑やかさと多様性を現し、空間を豊かにしていく。



1F 平面図 1/100

